

血液検査室コメントの追跡調査

検査部	黒山 祥文	川口 貴子
	関根 久実	山口 孝一
	高崎 将一	大棟久美江
	大畑 雅彦	

血液検査室では、血液像にて異常所見が認められる場合や臨床医の問い合わせがあった場合にコメント報告をしている。今回、2007年から2009年10月までのコメント報告の件数と内容を調査し、コメントにより新たに検査が出されることによる収益を調べた。

コメント件数は、2007年 218件、2008年 171件、2009年 238件であった。コメントの内容については、破碎赤血球のカウントがもっとも多く、次に血球の形態異常に関する報告や異常細胞のコメント、感染症による好中球の退行性変化のコメントであった。破碎赤血球は、移植後のTMAの早期発見やDIC、TTPなどに認められやすく、臨床医からの問い合わせも多い。また、血球の形態異常や異常細胞の出現は骨髓検査の対象となり、フローサ

イトメトリー検査や染色体・遺伝子検査にも波及してくる。2007年では骨髓検査が13件、2008年 8件、2009年 8件であり、フローサイトメトリー検査は、2007年 16件、2008年 6件、2009年 7件であった。遺伝子・染色体は、2007年 16件、2008年 15件、2009年 7件であった。その他、好中球の退行性変化では、FDP、D-dimerなどの凝固線溶検査の提出が、2007年 32件、2008年 26件、2009年 28件だった。血液検査室からのコメント報告により、新たに検査されることによる収益は、2007年は約50万円、2008年 約53万円、2009年 30万円であった。

血液検査室より発せられるコメントにより、新たな検査が実施され、診断や治療に大きく貢献され、わずかながらの収益にも貢献していた。

退院支援マニュアルの活用状況 —現状調査より見えた現状と課題—

看護師長プロジェクト	柿宇土敦子	青木 瑞江
	小塚 美加	山地 啓子

I. はじめに

看護師長プロジェクト「ベッド運営」グループでは、「効率のよいベッド運営を目指す」を目標に活動している。効率の良いベッド運営を行うには、円滑に退院支援を進めることが重要である。そこで、退院支援の現状を把握するために、昨年構築された「退院支援マニュアル」の使用状況と診療報酬加算件数、転院状況を調査した。調査の結果と今後の課題について報告する。

II. 方 法

1. 現状調査

調査期間：2008年8月～2009年7月

- 1) 後期高齢者の転院件数と転移先
- 2) 後期高齢者退院調整加算の算定件数
2. 後期高齢者転院患者数とケースワーカー介入件数
集計期間：2008年8月～2009年7月
 - 1) 後期高齢者転院件数
 - 2) ケースワーカー介入
3. 退院支援マニュアルの活用状況アンケート調査
調査期間：2009年9月
調査対象：全病棟

III. 結果考察

後期高齢者の転院患者数は593件、そのうちケースワーカーが介入した件数は360件であり、後期高